

熊本・益城町東無田集落 復興まちづくりプロジェクト

熊本県益城町東無田集落にて、 第二回「まちづくりワークショップ」が開催されました。

2017年6月18日に、熊本県益城町東無田集落の方々、中央大学、熊本県立大学により、第2回ワークショップが開催されました。今回のワークショップは、東無田集落の復興に向けて、より具体的に集落の将来について話し合いを行いました。

ワークショップ当日は、まず集落の皆さんと前回のワークショップを映像と共に振り返りました。その後、前回のワークショップで4つの班により提案された東無田集落の将来像を1つの図面にまとめました。次に、4案をまとめることによって住民全体で検討の必要があると考えられた、災害公営住宅、公園と集会所、道路、その他の施設について、議論を行いました。災害公営住宅の建設候補地については、実際に建設が可能な土地であるのか、利便性の高い場所であるか、災害公営住宅に入居するお年寄りの見守りが可能な場所であるか等、様々な角度から議論が行われました。公園については、3つの公園が提案されました。1つめは、災害公営住宅に隣接し、集落の住人の集う場となる一方で、災害時には一時避難所となる、集落の中心部に位置する公園、2つめは、震災前から、住民の集う場であった、八幡宮の境内の鎮守の森、3つめは、集落の外側に隣接する集落内のみではなく、そのほかの地域の方々も集まり交流することができる広いスポーツグラウンドです。3種類の公園を設置することで、様々な活動や交流が可能となります。また、集会所は、集落の方々の寄り合いの場となるよう、公園内に設置することが提案されました。道路については、東無田集落では、道路幅が狭く、防災上危険である一方、狭く曲がりくねった道が魅力にもなっています。そこで、災害発生時に一時避難所となる公園から、集落外に避難するための道や、現地調査により明らかとなった、著しく狭い危険な道に関しては、拡幅を検討することとなりました。その他の施設については、湧き水についての議論が行われました。集落内には多くの井戸があり、地下水が豊富です。そこで、豊富な地下水を利用して、水と触れ合うことができるよう、湧水池や公園内に池を設置することが提案されました。

今回のワークショップでは、集落の将来像を実現可能性もふくめ、具体的に議論しました。住民の方からは、具体的に議論がはじまったので、東無田集落が今後どのように変わっていくのか、とてもわくわくするという声をいただきました。

今後も、環境デザイン研究室では、東無田集落の復興支援を継続的に行っていきたいと思えます。



東無田集落の将来図



災害公営住宅の建設地について議論を行いました。



住民の方も真剣に東無田の将来について考えました。



住民の方々と共に図面をつくる森田さん



住民の方々の意見に耳を傾ける鎌谷さん



ワークショップに参加した石川教授と中央大学・熊本県立大学の学生